

学術情報リテラシー教育の 理論と動向

国立情報学研究所
学術コンテンツ課
米澤 誠

これは情報リテラシーでしょうか？

- 参考図書は重要な情報源である
 - 論理演算としてAND検索やOR検索がある
 - 検索エンジンのランキングは信頼性の順位である
- ①
- 巻末の書誌リストには、一定のフォーマットがある
 - 文章を明確化する手法として、パラグラフライティングというものがある
 - 他人の意見を記述する場合は、適切な引用もしくは参照の手続きが必要である
- ②

これは情報リテラシーでしょうか？

- 多くのウェブサイトはHTMLで作成される
- ファイル転送はFTPで行うことが多い

③

- ウィルスに感染しないためには、アンチウィルスソフトを導入する必要がある
- ソフトウェアの不正なコピーは行ってならない
- メールには巨大な容量のファイルを添付してはならない

④

**図書館で担うべき情報リテラシー教育は、
どの範囲なののでしょうか？**

1 学術情報リテラシー教育の理論

2 学術情報リテラシー教育の動向

**3 学術情報リテラシー教育（指導サービス）
の要素**

- 1.1 リテラシーとは, 情報リテラシーとは**
- 1.2 情報リテラシー教育の実施状況**
- 1.3 図書館利用者教育と学術情報リテラシー**
- 1.4 情報リテラシーの今日的理解**
- 1.5 「リテラシー教育」概念の関係整理**

1.1 リテラシーとは、情報リテラシーとは

リテラシーとは、あるコミュニティ(一般には国・地域)において生活(機能)するために必要な**読み書き能力**、さらには**計算なども含めた基礎学力**を指す。

(野末俊比古「情報リテラシー教育と大学図書館」、『図書館雑誌』, 102(11), 2008, p.762-765)

情報リテラシーを、**問題解決のために情報を主体的に活用する能力**ととらえ、教育内容(目標)として設定するには、さらに具体化(細分化)し、「誰にとってのものであるか」を明確にしておく必要がある。ここでは、イメージしやすいように、「(主に教育・学習の場としての)大学」というコミュニティにおける**「大学生(いわゆる一般の学部生)」**を念頭に置くこととする。(野末2008)

顧客のセグメンテーション

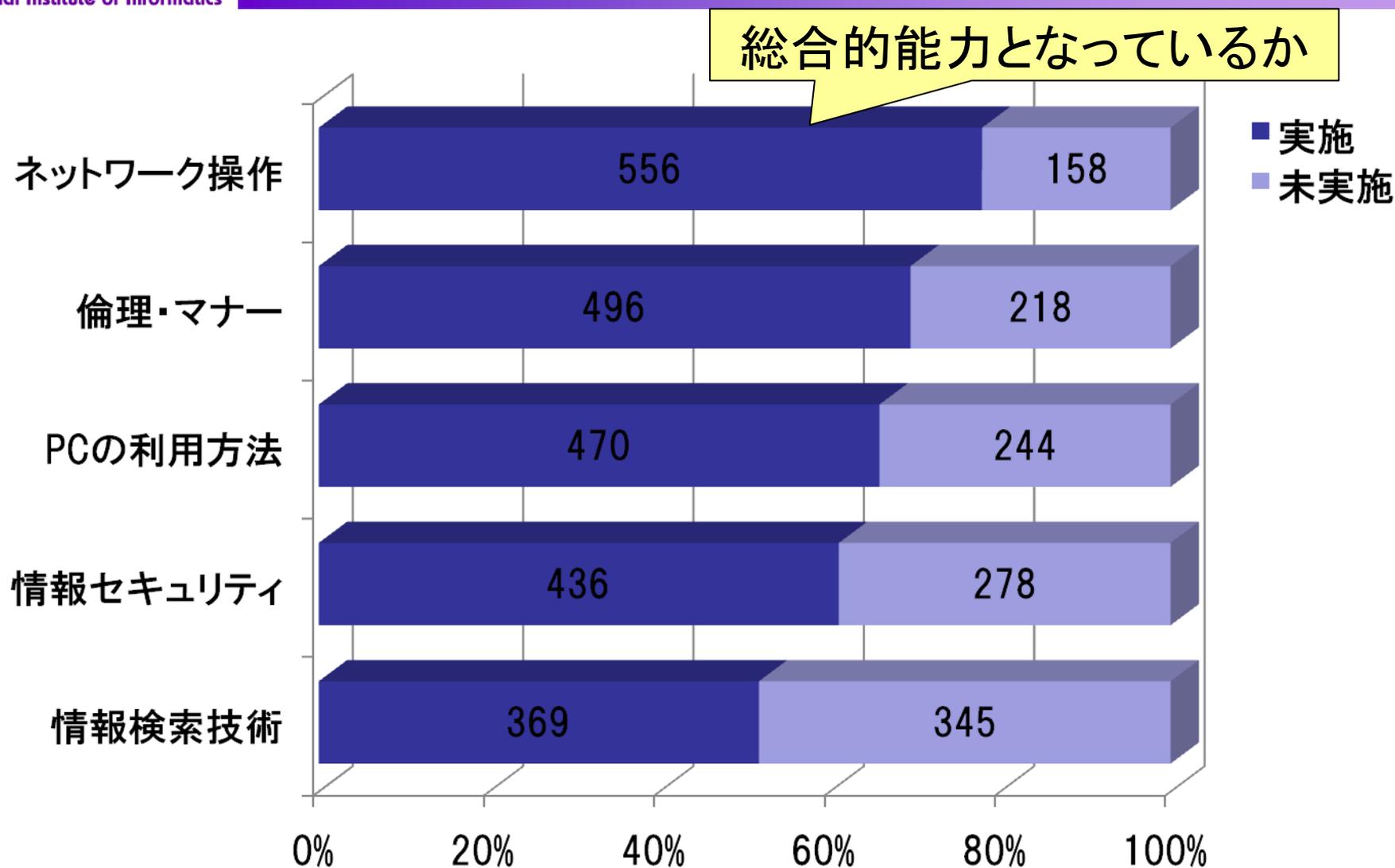
1.1 リテラシーとは、情報リテラシーとは

情報リテラシーとは、「図書館(資料)」だけでなく、広く「情報」に関わる能力であり、また、情報の「探索・収集」だけでなく、「整理・分析」や「表現・発信」をめぐる知識・技能などが含まれるのである。(野末2008)

情報リテラシーとは、情報が必要なとき、それを認識し、効果的に発見、評価、利用する能力。
(ALAによる定義)

総合的・自律的能力

1.2 情報リテラシー教育の実施状況



文部科学省, 平成21年度『学術情報基盤事態調査』から

ものごとを深く考える図書館員たちは、**コンピュータ・リテラシーが実際のところ情報リテラシーの一部分に過ぎない**ということを知っている。彼らは情報社会が求めているのはコンピュータをつかいこなすだけの人間ではなく、情報をも使いこなすことのできる人間であるということにすぐに気がついたのである。図書館員たちは、こうした違いに大学管理者たちよりも早く気がついたが、それは彼らの方が賢いとか、読みが深いとかいう理由からではなく、情報管理が彼らの専門領域だからである。図書館員たちは常日頃、情報リテラシーを学んだり教えたりしているのである。

(ブレビイク, ギー『情報を使う力』, 勁草書房, 1995)

情報リテラシーとは、コンピュータを使いこなす能力ではなく、“情報”を使いこなす能力のことである。(中略)

情報を探して入手し、それを分析して理解し、その分析に基づいて新しい情報を再生産するという情報利用の全過程を視野に入れて執筆したのである。

(海野敏, 田村恭久『情報リテラシー』, オーム社出版局, 2002)

海野敏, 田村恭久『情報リテラシー』 目次(1)

1 情報化社会の読み書きそろばん

- ・コンピュータとは何か, コンピュータ操作の基礎, ネットワーク利用の基礎

2 情報を収集する

- ・さまざまな情報源, 印刷メディアによる情報探索, インターネットリソースの利用, 商用データベースの利用

3 情報を分析する

- ・情報分析と抽象化, チャート表現, 抽象思考のツボ, グラフ表現, 表計算ソフトとグラフの描画

海野敏, 田村恭久『情報リテラシー』 目次(2)

4 情報を構成する

- ・論理構成の基本, パラグラフィティング, 文章表現の技術

5 情報を表現する

- ・さまざまな口頭発表, プレゼンテーションの技術, PowerPointの利用, ウェブページによる情報発信

6 情報化社会のルールとマナー

- ・情報化社会の可能性と危険性, 知的財産権の保護, コンピュータ犯罪, 自己防衛と自己責任

利用教育は、「図書館利用者に対して図書館の効果的・効率的な使い方を伝える」という、いわば図書館の内部的な事情に基づいている。

これに対し、情報リテラシー教育(という枠組みのなかで実施される利用教育)は、「大学生(利用者)に対して**情報リテラシーの習得・向上を支援する**」という**大学全体の取り組み**、つまり図書館にとっては**外部的な要請**に基づくものとなる。(野末2008)

大学教育の中での位置づけ

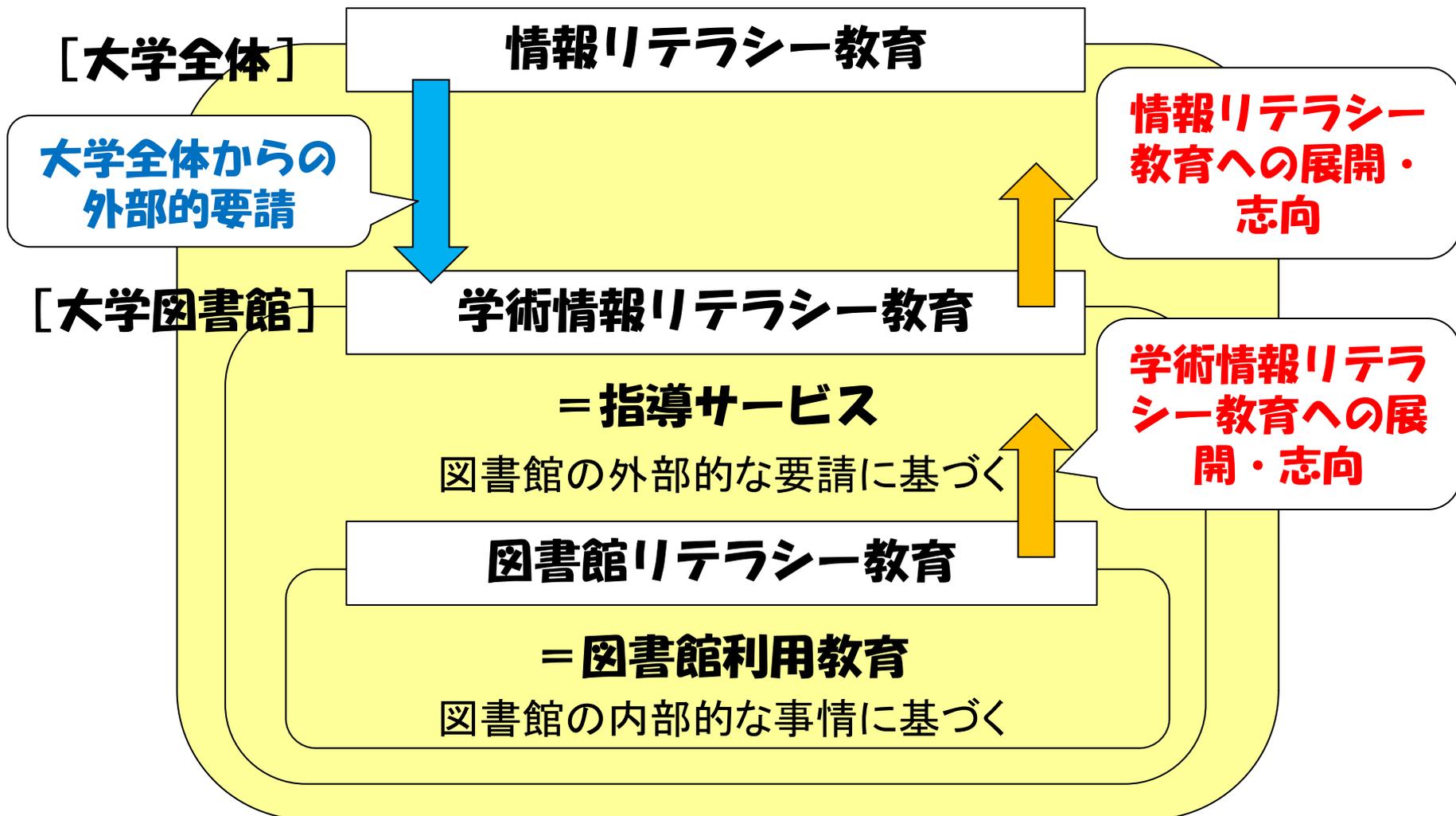
1.4 情報リテラシーの今日的な理解

さて、電子化・ネットワーク化の進展・普及などに伴って、図書館における利用者教育の内容(目標)は「拡大」されてきた。(中略)すなわち、**利用教育は、実質的に、情報リテラシー教育を志向しながら展開してきたともいえる。**

しかし、(狭い意味、古い意味での)利用教育が、いわば「逐次的」「個別的」「単発的」に実施されてきたものだとするならば、**今後は「計画的」「体系的」「組織的」に実施していけるように「サービス」として確立していくことが求められる。**そこで、情報リテラシー教育という枠組みのなかで実施される利用教育(広い意味、新しい意味での利用教育)を「**指導サービス**」と呼ぶことにしたい。(野末2008)

大学教育の中での位置づけ

1.5 「リテラシー教育」概念の関係整理



ブレイビク, ギー『情報を使う力』 目次

- 1 新しい図書館像
- 2 情報社会と高等教育
- 3 授業の改善
- 4 研究生産性の促進
- 5 地域サービスの改善
- 6 経営管理活動の支援
- 7 変革期における図書館
- 8 情報アクセスの拡大
- 9 人の問題
- 10 資金獲得の新しい方法
- 11 情報社会を教育のために活かす

大学経営全体の中での
情報リテラシー
= 大学図書館の位置づけ

2.1 政策の動向

2.2 研究の動向

2.3 実践の動向（具体的な教育方法）

2.1 政策の動向:IT基本法

(教育及び学習の振興並びに人材の育成)

第十八条 高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する施策の策定に当たっては、すべての国民が情報通信技術を活用することができるようにするための教育及び学習を振興するとともに、高度情報通信ネットワーク社会の発展を担う専門的な知識又は技術を有する創造的な人材を育成するために必要な措置が講じられなければならない。

『高度情報通信ネットワーク社会形成基本法』, 2001

3. 電子図書館的機能の整備の方策

(6) 情報リテラシー教育への支援

(前略)

電子的情報資料の有効活用を含めた、情報リテラシー(情報利活用能力)教育の重要性も認識されてきており、こうした情報リテラシーを前提とした、学生の自主的な学習活動も推奨されている。大学図書館は、これら電子的教材作成、情報リテラシー教育及び学生の自主学習等に対する支援において、その一翼を担うことが求められている。

『大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について(建議)』, 1996

2. 大学図書館を取り巻く課題

2.5 図書館サービスの問題点

(イ) 情報リテラシー教育の位置付けが不明確

(前略)

平成15年度からは国立情報学研究所(NII)が「学術情報リテラシー教育担当者研修」を実施し、多くの大学図書館員参加者がある。しかし現時点で、多くの大学で行われている情報リテラシー教育は教養教育及び各専門分野における教育との連携が不十分であり、効果が限定的である。

『学術情報基盤の今後の在り方について(報告)』, 2006

(ウ) 利用者ニーズの把握が不十分
(前略)

なお重要度を失わない伝統的な紙媒体資料と電子情報資源の混在した情報環境において、研究者も学生も情報ニーズと利用行動に変化を来している。その一方で、検索スキルや情報源評価能力の格差は広がりつつある。大学図書館は、このような変化に対応できるように、具体的なサービス改善策等を検討する必要があるが、そのため利用者調査等により、利用者ニーズの把握に努める必要があるが、この取組みが十分になされている状況とは言いがたい。

『学術情報基盤の今後の在り方について(報告)』, 2006

2.1 政策の動向：中央教育審議会答申

1. 知識・理解

- (1) 多文化・異文化に関する知識の理解
- (2) 人類の文化, 社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能

- (1) コミュニケーション・スキル
- (2) 数量的スキル
- (3) 情報リテラシー
- (4) 論理的思考力
- (5) 問題解決力

3. 態度・志向性

- (1) 自己管理能力
- (2) チームワーク, リーダーシップ
- (3) 倫理観
- (4) 市民としての社会的責任
- (5) 生涯学習力

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

本来の情報リテラシー

- 学生の学習支援
 - ・ラーニング・コモンズ
 - ・学生が学生を指導する体制
 - ・ライティングセンターの活動

- 教育活動への関与
 - ・情報リテラシー教育の強化
 - ・初年次教育への導入
 - ・図書館職員の関与

(2010)

－理論的な研究の流れ

－プログラム体系化の流れ

－具体的な教育方法に関する流れ

・野末俊比古, 「研究文献レビュー. 情報リテラシー教育: 図書館・図書館情報学を取り巻く研究動向」, カレントアウェアネス, no.302, 2009

2.3 実践の動向(具体的な教育方法)

- **出張講座 (出前講座)**
- **PBL**
- **教材・ツール開発**
- **リエゾン・ライフリアン**
- **初年次教育 (導入教育)**
- **レポート作成指導**

- (a) マネジメント : Why**
- (b) マーケティング : Whom**
- (c) 手順など : Who, When, Where**
- (d) -**
- (e) 指導内容 : What**
- (f) 指導方法・手段 : How**

3 学術情報リテラシーの要素(a)～(b)

(a) マネジメント：Why

- 「学術情報リテラシー教育における企画力」
- 「学術情報リテラシー教育と評価」

(b) マーケティング：Whom

- 利用者像の把握・分析
- 現代の学生の理解
- 大学の教育・学習の理解：アクティブ・ラーニングの動向
- 「大学の授業法改善と学習支援型図書館」
- 「学術情報リテラシー教育における企画力」

(c) (d) 手順など（教員・学内との連携協力・分担, 職員の技能・資質）：Who, When, Where

- **単発的指導サービスから, 計画的指導サービスへ：らせん型の指導**
- **体系的プログラムの中からの, 個別的指導カリキュラム**
- **授業との関わり**
 - 「大学における初年次教育の動向」

(e) 指導内容：What

- 「学術情報リテラシー教育の理論と動向」
- 「NII学術コンテンツサービスの最新動向」

(f) 指導方法・手段：How

- 「大学生を教えるノウハウ」
- 「プレゼンテーション技法」
- 「効果的なグループ討議法」